

南一郎平を朝ドラに！

日本三大疎水の父

南一郎平

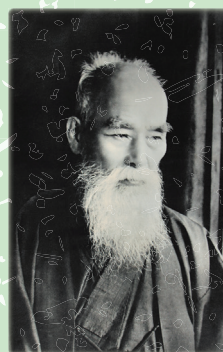
ものがたり

問合せ
総合政策課企画調整係
(☎27-8109)

第1回 人との出会い・絆

市では、関係機関が一体となって郷土の偉人「南一郎平」を題材としたNHK連続テレビ小説(朝ドラ)の誘致に取り組んでいます。一郎平が地域住民の生活や郷土の未来を思い、難工事や資金繰りなどさまざまな苦難を乗り越えて広瀬井路を完成させた事実は、世界かんがい施設遺産登録などの取り組みを通じて広まってきましたが、事業背景などの詳細はまだまだ知られていません。

一郎平は、広瀬井路の完成後、政府に招かれ日本三大疎水と呼ばれる福島県の安積(あさか)疎水、栃木県的那須疎水、京都府の琵琶湖疎水をはじめとする全国の疎水事業に携わりました。その活躍ぶりは松方正義(のちの内閣総理大臣)から「隠れたる実業界の偉人」と称賛されるほどで、近代日本のインフラ整備や農業振興に大きな功績を残したといっても過言ではありません。



南一郎平

※宇佐学マンガシリーズ⑤「日本三大疎水の父 南一郎平」は市民図書館 電子分館で閲覧できます。

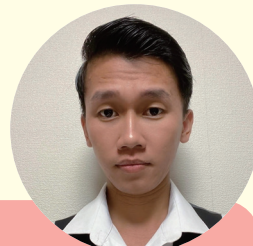
多文化共生ひろば

問合せ 秘書広報課 多文化共生・交流係
(☎27-8240)

このコーナーでは、宇佐市の外国人住民や支援者、市の取り組みなどについてご紹介します。みんなが暮らしやすい多文化共生社会を作るためにまずは知ることから始めませんか。

日本に来たとき「家族と離れて大丈夫かな。職場の人とうまくやっていけるかな」と全てが不安でしたが、宇佐の日本語教室の先生方はとても優しく、おかげで日本語能力試験N3に合格できました。私たちを応援してくれる方が多く、驚きました。仕事が少ない時には、お弁当やパン、野菜だけでなく、100kgのお米ももらいました。サッカーの試合を市役所チームとしたり、横山地区まちづくり協議会の方とトレッキングをして餅を焼いたり、とても楽しい体験をしました。

宇佐の生活に慣れてきた今、実習期間を終えようとしています。一番恋しいのは宇佐の人たちの温かさです。私は宇佐を第2の故郷と考えています。ここでの思い出は決して忘れません。日本語を教えてくれた先生方、助けてくれた全ての人たちに感謝しています。皆さんの健康と幸せをいつも願っています。



お便りをくれた方

名前 チャン タイン チュックさん 国籍 ベトナム
住所 上田 職場 双葉産業㈱

今月は柳ヶ浦高校の創設者、吉用寿栄さんの話です。創立は

明治43（1910）年の私立柳ヶ浦裁縫女学校で、良妻賢母を目指す「淑徳」を建学の精神としています。寿栄さんは宇佐郡南毛村（現・安心院町下毛）で生まれ、現・東京家政大学の東京裁縫女学校で教職免許を取得。校長兼教諭として女学校をスタートさせると、宇佐郡内各地から生徒が集まりました。

大正13年に財団法人大分県柳ヶ浦女子高等技芸学校に改称、昭和6年には安心院町下毛（現・家族旅行村）に分校を設置します。昭和16年、柳ヶ浦高等女学校となった同年、太平洋戦争勃発。女学校の近くに宇佐海軍航空隊があったことから戦争末期には特攻隊の宿舎として利用され、昭和20年4月21日、米軍の空襲により校舎は焼失し

ます。

戦後、街は焦土と化し、食料や物資不足で生活は困窮を極める中、寿栄さんは学校を海軍航空隊の整備工場に移し授業を再開します。そして昭和23年、学制改革の流れに乗り、現在地に柳ヶ浦女子高等学校として復興を遂げるのです。なお、同年、安心院高等女学校は安心院町に寄付され、新制安心院中学校として利用されました。

激動の時代を生き抜いた寿栄さんは昭和34年、78歳で生涯を閉じます。まさに女子教育に情熱を燃やし続けた人生でした。



吉用寿栄さん

平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは「宇佐市平和ミュージアム（仮称）資料館」の開館に向け、これまで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

47 津島屋本家「総督」酒造跡

津島屋は江戸時代中期からの酒造屋で、明治末に銘柄「総督」を売り出しました。その後、昭和20年4月21日の空襲で爆弾が命中し、工場、家屋ともに壊滅しました。酒蔵の柱や屋根は残っていましたが、強度の問題から、弾痕がある屋根部分を下ろして整備しました。地下には日本酒の貯蔵庫があり、防空壕としても使われました。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎ 27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎ 27-8200）